

# 2026 年度 (令和8年度) 学校評価自己評価表

新市中央中学校区	校番 69	福山市立戸手小学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月1日

## I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

## II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会 (学校関係者評価) の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校や地域等で、気持ちの良い挨拶ができています。また、教職員が、生徒たちの取組を「自分事」としてとらえることができています。</li> <li>メディアコントロールの取組では、生徒が自分で考え、「やってみよう」という意識づくりの大切さが伝わってきた。引き続き、自分で気づき、行動する力を高めるように指導・サポートをしてほしい。</li> <li>学力向上へ向けての取組を継続してほしい。</li> </ul>	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力調査等の結果から、基礎的・基本的な内容が定着してきている。また、家庭及び地域の方の力を結集し、メディアコントロールに取り組んでおり、生活習慣の改善が見られ始めている。</li> <li>校区で育てたい資質・能力を意識しながら各活動に取り組むことで、校区全体の肯定的評価は、チャレンジ&amp;チェンジする力 (88.1%) 自己理解力 (87.0%) 自己表現力 (83.4%) といずれも 80%を超えており、4 月と 12 月比では、12 月比はいずれの項目も上昇している。</li> </ul>	<p>育成する 資質・能力</p> <p>めざすこども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として 統一した取組等</p>	<p>チャレンジ&amp;チェンジする力、自己理解力、自己表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の目標達成に向けた計画を立て、取り組む児童生徒。そして、その取組を定期的に振り返り、改善策を考える児童生徒。</li> <li>自分の将来の夢や目標を持つ児童生徒。</li> <li>自分の思いや考えを相手に分かりやすく説明する児童生徒。</li> </ul> <p>児童生徒や教職員、地元事業者、地域の方と育成したい資質・能力を共有しながら、出前授業、探究的・体験的な学習など、様々に取り組んでいく。</p>
---	--	---	---

## III 自校

<p>学校教育目標</p> <p>自ら考え、心豊かで生き生きと活動する児童を育てる</p>
---

<p>現状</p> <p>&lt;児童生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>落ち着いて学習に取り組むことができているが、時間が経つと学習内容を忘れる傾向が強いこともあり、基礎学力の定着に大きな課題がある。</li> <li>2年生から6年生の全学級において、標準学力調査結果が全国平均を下回っている。特に算数科では、正答率 40%未満の児童の割合が、20%を超える学年が複数あり、児童実態に応じた個別の手立てや支援が不可欠である。</li> <li>互いを認め合える学級集団づくりや授業の中で自分の考えを伝える場を通して、「自分の思いや考えを表現できた」児童は、91.4%と自己表現力が高まっている。</li> <li>「メディアコントロール Day」の取組である就寝前 1 時間のメディア不使用が達成できた児童は 74.7%、平日のメディア使用時間が 2 時間以上の児童は 33.7% で市平均を上回っており、生活習慣の見直しに向けた取組の工夫改善が必要である。</li> </ul> <p>&lt;授業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力調査結果分析を基に、授業づくりポートフォリオを活用した研修の充実を図り、教職員が意欲的にこれまでの取組の見直しと授業改善を進めている。</li> <li>全ての学年が、地域の人・物・事からの学びを深め、地域と共に学ぶ探究学習の推進とキャリア教育の充実を図っている。</li> </ul>
---

育成する 資質・能力	チャレンジ&チェンジする力	自己表現力	自己理解力	
めざすこども像	1・2年	自分のやりたい事に挑戦する。	自分の思いを相手に伝える事ができる。	自分のよさに気付く。
	3・4年	困難な事にも挑戦し、最後までやりきる。	自分の思いや考えをまとめて表現できる。	自分の得意な事や、夢中になれる事を見つける。
	5・6年	活動をふり返り、改善策を考える。	自分の思いや考えを、多様な表現方法を用いて説明できる。	自分の将来の夢や目標を持つ。
研究	テーマ	<p>学びのよさを実感する児童の育成 ～書くことを通して自分の考えをもち、学びを深める授業づくり～</p>		
	内容等	<p>国語科・算数科において、「書く(考えをもち)」「対話する(比較・関連・統合)」「書く(考えを更新)」という学習過程を重視し、それを繰り返すことで知識・技能と思考・判断・表現を往還させながら学びを深める授業づくりを進める。</p>		
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>書くことを通して自分の考えをもち、友達とのかかわりによって考えを更新し、学びを自覚することができる授業</li> <li>授業づくりポートフォリオを活用し、基礎的な学力の定着に向けて、付けたい力を明確にした授業</li> </ul>			

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立戸手小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
6	子どもが学びに向かう力、学び続ける力を育成する。		継続	<チャレンジ&チェンジする力>を育成する。	・体育科の授業や体カテストから自分自身の体力の課題を明らかにして取組を行う。 ・メディアコントロールDayに全校で取り組む。	・「体カテストの記録が伸びた」児童を85%以上にする。 ・木曜日に「メディア機器の使用時間を1時間以内にすることができた」児童を80%以上にする。									
6		☆	継続	<自己表現力>を育成する。	・授業づくりレポートフォリオを基に、一人一回研究授業を行い、自分の考えを書いて表現し、学びを自覚できる授業づくりについて協議する。	・「授業の始めと終わりで自分の考えが深まった」児童を85%以上にする。 ・単元末テスト(国算)における到達率40%未満の児童を20%以下にする。									
6			継続	<自己理解力>を育成する。	・学校行事等の目標から自己目標を設定し、その取組について振り返りの場を設けることで、自己の伸びを実感できるようにする。	・「目標達成に向けて取り組むことができた」児童を90%以上にする。 ・「自分の伸びを実感した」もしくは「自分の良さを発見した」児童を90%以上にする。									
6	教職員が元気・笑顔で勤務できる環境を充実させる。		継続	業務改善を図ることで、教職員が、支え合いながらやりがいや充実感を持って教育活動を行う。	・授業づくりにおける互いの工夫について、短時間で対話する場「ポートフォリオ・ティータイム」を定例的に実施する。	・授業づくりレポートフォリオを通して、自身の授業改善に手応えを感じている教職員の肯定的評価を85%以上にする。									

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。